

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196100018		
法人名	株式会社関東メディカル・ケア		
事業所名	グループホームフローラ幸手		
所在地	〒340-0114埼玉県幸手市東4-9-15		
自己評価作成日	令和 2年 12月 31日	評価結果市町村受理日	令和3年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 3年 3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>24時間オンコールによる万全の医療体制取り入れております。 また、日々の生活での生活リハビリを行い認知機能の低下を改善し予防します。毎日の外気浴または散歩を行っております。 毎日の食事は職員の手作りで、作り立てで心のこもったメニューを提供しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は法人の理念として1. 私達をご利用者様、ご入居者様に対して、常に「です、ます」の敬語で対応します。2. プロとしての自覚を持ってサービスを提供します。3. 心のこもった親切、丁寧な介護を提供します。を掲げている。職員は利用者へ声掛けをしてゆっくり話を聞き、自分の意志を上手く表すことが困難な利用者には優しく寄り添い、思いや意向の把握に努めている。利用者の家族へは毎月本社から「フローラ便り」が送られている。催事、写真、コメント、全員の写真が掲載され、お花見の写真では「桜がきれい」「桜を見ることができて良かった」と家族から感謝の言葉があった。管理者は他の事業所と共にオレンジネットワークのリモート勉強会に参加し、感染症予防や換気方法等について情報交換を行い事業所の運営に反映させている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階、2階一緒に朝の申送りの時に職員心得を唱和し理念を共有することが出来るよう取り組んでいます。	法人理念を1階事務所に掲示している。職員は利用者に対して態度が上から目線にならないように、言葉が強いトーンにならないように努めている。優しくゆっくりと接することを心掛けている。	事業所は職員が認知症への理解を深め、常にプロとしての自覚をもってケアに臨むことを目標にしている。職員の方々の今以上の意識の向上を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、毎週地域の体操ボランティアが来所している、また季節ごとの催事に可能な限り参加させていただいています。本年度は新型コロナウイルスの影響により参加は自粛させていただいております。	自治会に加入し、積極的に地域の行事に参加している。公園でのお祭りのお神輿に利用者も参加して楽しんだ。日々の散歩では近隣の方と挨拶を交わし、話をしてなごやかな時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折自治会の会合にて理解や支援の方法を説明している。本年度は新型コロナウイルスの影響により自粛させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市役所の職員、御家族様等にサービス、活動等の報告を行い、その都度サービスの向上に活かしている。本年度は新型コロナウイルスの影響により資料を作成しそれをお届けしております。	2か月に一度、家族、市役所職員、民生委員の出席を得て開催していたが、現在は書面開催で資料を作り配布している。事業所からは利用者の様子を報告し、参加者からアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者と連絡を取りながら連携している。	市からコロナ対策のマスクやグローブの配布を受けている。コロナワクチン接種の受け方の説明もあった。連絡は電話やメールで行い市の職員とは日頃から密に連絡を取り合い連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修での内容で取り組んでいる。また、隔月で身体拘束委員会を実施し資料の読み合わせなどを行い身体拘束をしないケアに対し理解を深めている。	研修において身体拘束をしないケアについて確認をしている。言葉による拘束に気を配り、利用者に対して強い言い方にならないように、理由を言って「ちょっと待ってください」「何分待ってください」と言うように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の使い方に気をつける等、毎月会議にて職員に周知している。その他に社内研修での内容で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度や日常生活自立支援事業を利用している方が入居者様におらず、知識不足は否めません。今後、勉強会などを開催し学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学をして頂き事業所のケアに対する考え方、取り組みを説明し、環境等も見て頂いています。契約時、解約時、改定時には十分な説明をし理解、納得を得られた上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご入居者様、ご家族様とコミュニケーションを図り、意見や要望等を職員全員が傾聴する体制を取っています。意見や要望は速やかに申し送り、フロア会議等で話し合い運営に反映するよう努めています。	現在、家族の面会はマスクを着用し玄関のベンチに座って行われている。その際に家族からの要望を聞いている。利用者との外出を希望される家族には、今は感染予防のためお断りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議を実施し、職員の意見を聞き、提案を述べる機会を持ち運営に活かしています。2ヶ月に1回全体会議には会社代表者、関連医療法人理事長(往診医)、本部職員も参加しています。	日々の申し送り時やフロア会議において意見交換をしている。そこで決まらない議題は全体会議にて話し合われている。職員全員が同じ気持ちでケアに励むことができるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無資格で入職の職員には資格取得支援助成金制度があることを伝えています。また各種資格手当での支給などもあり、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年6回、社内研修を開催しています。全員参加が原則ですが、欠席の場合はレポートを提出。研修で学んだことを現場で実践している。本年度は新型コロナウイルスの影響により研修は開催せずに資料の配布のみとなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おれんじネットワークという幸手市内のグループホーム、包括、高齢介護課の方が参加し情報の共有や意見交換の場があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、ご本人やご家族の希望や要望、不安な思いや、何を求めているのか等を十分に聞かせて頂き、安心していただけるようなサービスの提供を行うことでより良い関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安等を伺い、不安の解消に努めると共に信頼関係が作れるようにしている。本年度は新型コロナウイルスの影響により面会が制限されているため定期的に電話連絡を行いご家族様のご要望をお聞きし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを確認し、安心していただくよう様子を見て頂くと共にサービスの内容も説明させていただき、意向、要望に沿えるよう支援方法を考え、安心してお過ごしいただける環境に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の出来る事や昔から行っていた事等を把握し、無理のない範囲でお手伝いをお願いし一緒にいき自立支援に繋げている。する側と意識する事なく共に支え合う関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例年は家族関係が途切れない様に面会の機会を意識的に配慮して季節毎の行事に参加していただき、楽しんでいただいておりますが本年度は新型コロナウイルスの影響により面会を制限させていただいておりますので、定期的な電話連絡を行わせていただきました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は以前住んでいた隣人、自治会長、民生委員の方々が遊びに来てくれています。記念写真を撮ったり、時には職員も一緒に昔話を聴く等以前の生活歴を知る機会にもなっておりましたが本年度は新型コロナウイルスの影響により面会を制限させていただいております。	以前は家族以外の来訪者が多かったが現在は制限されている。知人からの電話や手紙、はがきを受け取る方もいる。馴染みの理美容室に行っていた方は現在は許可制になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性、気の合う人、合わない人の把握に努め、より良い関係が築けるよう環境に配慮し、入居者様同士が自然な形で支え合い生活出来るよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご家族様へ連絡をし現在の状況をお聞きし、困ったことや相談事があればその都度お話しを伺っております。例年であればご家族様に許可を取り病院へお見舞いへお伺いしておりますが本年度は新型コロナウイルスの影響により自粛させていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での行動、言動、表情等を観察し意向や意志を酌み取り実現出来るように努めている。困難な方には寄添いながらご家族から情報をいただいている。	多くの方に帰宅願望があり、地元に戻って昔の生活がしたい、夕刻なると、家に帰りたいたいと言う。話を聞き、夕ご飯を食べていってね、今日は泊っていってねと気持ちに寄り添うケアを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴の把握については、これまでの関係者や、ご家族からの情報収集を行うが、可能な限り本人から聞き取りを行い、また日々の生活での何気ない会話等からも把握し、職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の個々の心身の状況や言動をしっかり観察し、リズムに合った生活をして穏やかに過ごしていただけるよう努めている。お手伝い等していただいた時は記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望や思いを伺い、何が大切か現在の課題をあげて話し合いを行い計画を作成している。	ほとんどの家族は穏やかに過ごしてほしいと希望している。フロア会議でのカンファレンスにおいて職員が意見を出し合い、利用者に変化があれば現状に即したプランに変更し、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、送りノート等を活用して、その日にあった出来事や些細な変化も記録し、ご利用者様の情報を職員がいつでも確認、把握し共有できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設で出来ることだけに捉われないでご家族の協力や医療面では往診医、訪問看護、訪問歯科等を取り入れている等柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は地域資源を活用し多勢のボランティアの方々にお世話になっています。催し物によっては地域の方達にも参加頂いておりますが本年度は新型コロナウイルスの影響によりボランティア様や外部からのお客様は制限させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診の際は情報を提供。受診後の様子を伺っている。月2回往診あり日頃の心身の状況を把握し、往診医には書面と口頭で情報を提供しています。緊急時はマニュアルに基づき対応しています。	月2回、内科医の往診があり、月1回、希望者に歯科医の往診がある。月2回、訪問看護師の来訪もある。緊急時には24時間往診医に連絡が可能で指示を仰ぐことにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護があります。体調の変化や日々の様子を報告し、訪問看護を通じて看護職員と連携を図り、受診やへの往診医への伝達等により指示が仰げる体制を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室と情報交換を行い、ご家族とも連携を密にして病院での様子の把握に努めています。例年であれば入院期間中も見舞い、看護師から情報を伺う等しておりますが本年度は新型コロナウイルスの影響により医療連携室との電話でのやり取りにとどめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については入居時にお話をさせていただいています。ご家族、往診医と十分に情報を共有し、ご本人にとって最優先されるべきものは何か話し合い、検討していくようにしています。	食事摂取が困難になったり医療行為が必要になった場合に家族の希望があれば医師と相談して方針を決めている。家族と医師、管理者が十分に話し合い、利用者にとって最善のケアで臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故発生に備えて、日頃より緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員が緊急時の対応について、知識を共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を消防署の指導のもと、実施しています。実施毎に夜間帯、日中を想定し、入居者様との生活の中、危機意識を持てるように取り組んでいます。今後は自治会の避難訓練に参加したり、施設の避難訓練に自治会の方の参加をお願いしたいと思っています。	年2回、昼夜想定で消防署立ち合いのもと、避難訓練を実施していた。地震時には全居室のドアを開けて避難路を確保し、大雨時には洪水を懸念する。職員は訓練や研修で対応を周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待に繋がらない様適切な言葉遣い、声掛けには十分配慮し、誇りやプライバシーを損ねないようにしています。入浴時やおむつ交換時等には誇りや尊厳、プライバシーを損ねない対応に取り組んでいます。	社内研修において尊厳やプライバシーの確保について話し合っている。入浴時は浴室も脱衣場も一人ずつ入ってもらい、居室でのおむつ交換はドアを閉めて行き、羞恥心に配慮したケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らが考え、答えや意志決定が出せるように声掛けをしたり、自らの思いを表現できるような環境、雰囲気を作るように心掛けています。自ら出来ない方には傾聴をして事故決定しやすい最善の方法で支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりのペースを大切にして、個別にできるだけご本人様の要望に沿う形での支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、清潔感には気を付けご本人らしさが保たれるようにしています。可能な方にはご本人好みの服を選んでいただき、また訪問理美容を利用の際は直接髪型を伝えていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に入ることはしていませんが調理、味見、盛付等をお願いすることもあります。個々の力に応じ下ごしらえやテーブル拭き、食器拭き等利用者様に出来ることをして頂いています。	リビングの一角に対面式のキッチンがあり食事の準備をする様子や音、匂いがわかる。以前は車でファミレス等へ外食に出かけていた。月1回の出前食ではとんかつや天ぷら、うな丼を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて、食事量、形態等を把握し、食器や食べ方等を工夫し提供しています。現在は粥、極きざみ、常食等利用者に応じて提供しています。誤嚥の危険性がある入居者様には職員が見守り介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時は、個々の能力を把握し、必要に応じて援助し、自立の方も仕上げには口腔内の状況を確認する。困難な入居者様には個々に合った口腔ケア用品を利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘の原因や体調に及ぼす影響を理解し排泄パターンを把握、記録しています。腹部のマッサージやヨーグルトの摂取、水分摂取に取組み、改善が無い時は往診医に相談して下剤の服用等個別の対応を行っています。	個別のパターンを把握して食後に小声でちょっと運動しませんか？ちょっと行きませんか？とトイレ誘導を行なっている。病院から退院した方には座位、立位の確保から自立へ向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、運動量、排便パターンを把握し困難な場合は医師の指示にて下剤を使用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴を実施。湯船にゆっくり浸かりたい方、午前、午後入浴を希望される方には適宜時間を考慮しています。入浴拒否があれば無理強せず時間をおいてお誘いをしております。	週2回、午前午後希望の時間に入浴してもらっている。家で固形石鹸を使用していた方や好みのシャンプーを希望する方は家族が用意している。菖蒲湯や柚子湯で季節感を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者様の希望や体調に合わせて居室や共用スペースのソファ等で休息を取っていただいている。夜間寝付けない時はラウンジで話相手をし、居室の室温、寝具の状態、入眠状態の確認を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬ファイルを作成。薬の目的、副作用、用法、容量等把握出来る様にしている。薬が変更になれば申送りし職員が共有し誤薬のない様にしている。コスモ薬局とは何時でも相談できる体制が整っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人がやりがいや喜びの生活が送れる様に生活歴や出来る事の見極めをし、その人の力に応じた役割をお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は新型コロナウイルスの影響によりお店など人混みへの外出は自粛させていただいておりますが、近場の公園への外出やドライブなど3密を回避できる場所への外出支援を行っております。	天気が良ければ日常的に散歩に出かけている。車椅子利用の方も含めて全員に1対1で対応している。マスク着用で車で初詣やお花見にも出かけた。以前は家族と食事に出かける方もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族には理解いただき事業所の取り決めで紛失等のトラブルを考慮し、お金は所持しておりません。必要な買物はいつでも出来るようご家族様のご理解、ご了承を得た上で立替え、購入させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により対応している。自ら携帯電話をかける時は見守りし、ご家族からかかってきた時は電話に出て頂く等対応しています。手紙を頂いた方へ返事を書くよう勧めたり代筆させていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭があり外気浴やお茶を飲んだり自然に触れたりでき、共用空間の中では、TVを観たりソファで新聞を広げて読んだり、一人で過ごせる空間や、気の合ったご利用者様同士で話ができるような空間づくりを実施しています。	温度、湿度に気を配り、利用者から寒い寒いと言われながら換気を徹底している。玄関やリビングに月毎の飾り物が置かれ、壁には行事の写真や利用者の折り紙や塗り絵の作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で座れる場所を用意している。ゲームをしたり歌を歌ったり、職員が間に入りコミュニケーション出来るよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や馴染みの物を置いて頂き、出来る限りご自宅に近い環境となる様配慮し、ご利用者様は居心地良く過ごしていただいています。居室担当職員と一緒に整理したり環境作りに努めています。	電動ベッド、エアコン、照明、カーテン、クローゼットが備品である。筆筒やテーブル、椅子、TV等使い慣れた物を自由に持ち込んでもらい、壁には家族の写真や絵を飾り心地よく生活してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや各所に手摺を設置し、設備上の工夫により個々の状態に合わせ安全に移動出来ている。各居室の名札も分かり易くしています。		